NAGOYA BURARI MAP

鳴海・大高・有松・桶狭間編

名古屋ブラリMAP

名古屋市緑区にある4つの地区「鳴海・大高・有松・桶狭間」にて
大河ドラマで話題の戦国時代にゆかりのある歴史的な名所を
ブラブラたどってみよう！



観光ボランティアガイドのご案内

鳴海地区

鳴海歴史倶楽部

連絡先 鳴海歴史倶楽部 岩田宗広さん
［TEL］090-1412-3251

費用 ガイド1人当たり 1,000円

※ガイドは来訪者7～8人ごとに1人派遣（少人数でも案内可）

大高地区

大高歴史の会

連絡先 深谷篤さん
［TEL］090-8952-8610

費用 ガイド1人当たり 1,000円

有松地区

有松あないびとの会

連絡先 有松・鳴海絞会館［TEL］052-621-0111

費用 ガイド1人当たり 1,000円

※ガイドは来訪者7～8人ごとに1人派遣（少人数でも案内可）

桶狭間地区

桶狭間古戦場 保存会ガイド部

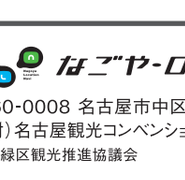
連絡先 桶狭間古戦場観光案内所［TEL］052-755-3593

費用 参加者1人 1,000円（史跡保存協力金として）

※ガイドは来訪者10～15人ごとに1人派遣（少人数でも案内可）

観光施設の情報

名古屋城



1610年（慶長15年）に徳川家康によって築城が開始された名古屋城。黄金の鯱をいただき、史上最大の延床面積を誇った大天守、絢爛豪華な本丸御殿など、城郭として旧国宝第一号に指定されました。戦災で焼失しましたが、1959年（昭和34年）に鉄骨鉄筋コンクリート造で天守閣が再建、2018年（平成30年）には本丸御殿が復元されました。
（現在天守閣は内部閉館中、外観のみ見学可）

徳川美術館



徳川家康の遺品を中心に、尾張徳川家初代義直（家康九男）以下代々の遺愛品、いわゆる「大名道具」1万件余りを収める美術館です。国宝「源氏物語絵巻」をはじめ、国内有数のコレクションを誇る刀剣や、三代将軍徳川家光の長女のお嫁入り道具など、9件の「国宝」を所蔵しています。

徳川園



徳川美術館に隣接した池泉回遊式の日本庭園で、清流が滝から渓谷を下り海に見立てた池へと流れるありさまは、日本の自然景観を象徴的に凝縮しています。さらに徳川園は、高低差の大きな地形や既存の樹林をそのまま利用し、その中に巨石を用いた岩組みが配置されています。新緑や紅葉、牡丹や花菖蒲の花々も四季を通じて楽しむことができます。

秀吉清正記念館



豊臣秀吉、加藤清正の生誕地 中村公園内に建つ歴史博物館です。豊臣秀吉の実績を中心に、織田信長の登場から豊臣家滅亡にいたる大坂の陣までを展示しています。また、加藤清正に代表される尾張出身の武将たちについても紹介しています。

熱田神宮



熱田神宮はその昔から「熱田さん」と呼ばれて親しまれ、多くの参拝者でにぎわい、全国の人々から限りない崇敬と信仰を集めています。三種の神器の一つ草薙神剣をまつり、古来より朝廷、武将からも厚く信仰されています。織田信長が桶狭間の戦いの戦勝祈願をし、勝利のお礼として寄進したといわれる「信長塀」があります。

熱田神宮宝物館・剣の宝庫 草薙館



熱田神宮は三種の神器の一つ「草薙神剣」をまつり、古くより多くの刀剣が奉納されてきました。その数は約450口に及び、国宝や重要文化財に指定された刀剣は20口を数えます。「剣の宝庫 草薙館」では、名刀の宝庫といわれる熱田神宮ならではの貴重な刀剣を「熱田神宮宝物館」では刀剣以外の宝物を中心に展示しています。

名古屋刀剣博物館 名古屋刀剣ワールド



およそ150振の日本刀や50領の甲冑、350挺の鉄砲など、国宝・重要文化財を含む美術品を多数収蔵する名古屋刀剣博物館。歴史的資料として貴重な刀剣・甲冑など、世界に誇る美術品と評される品々を展示しています。銃や日本刀の重さ体験や、武将になりきって撮影できるフォトスポットも人気です。

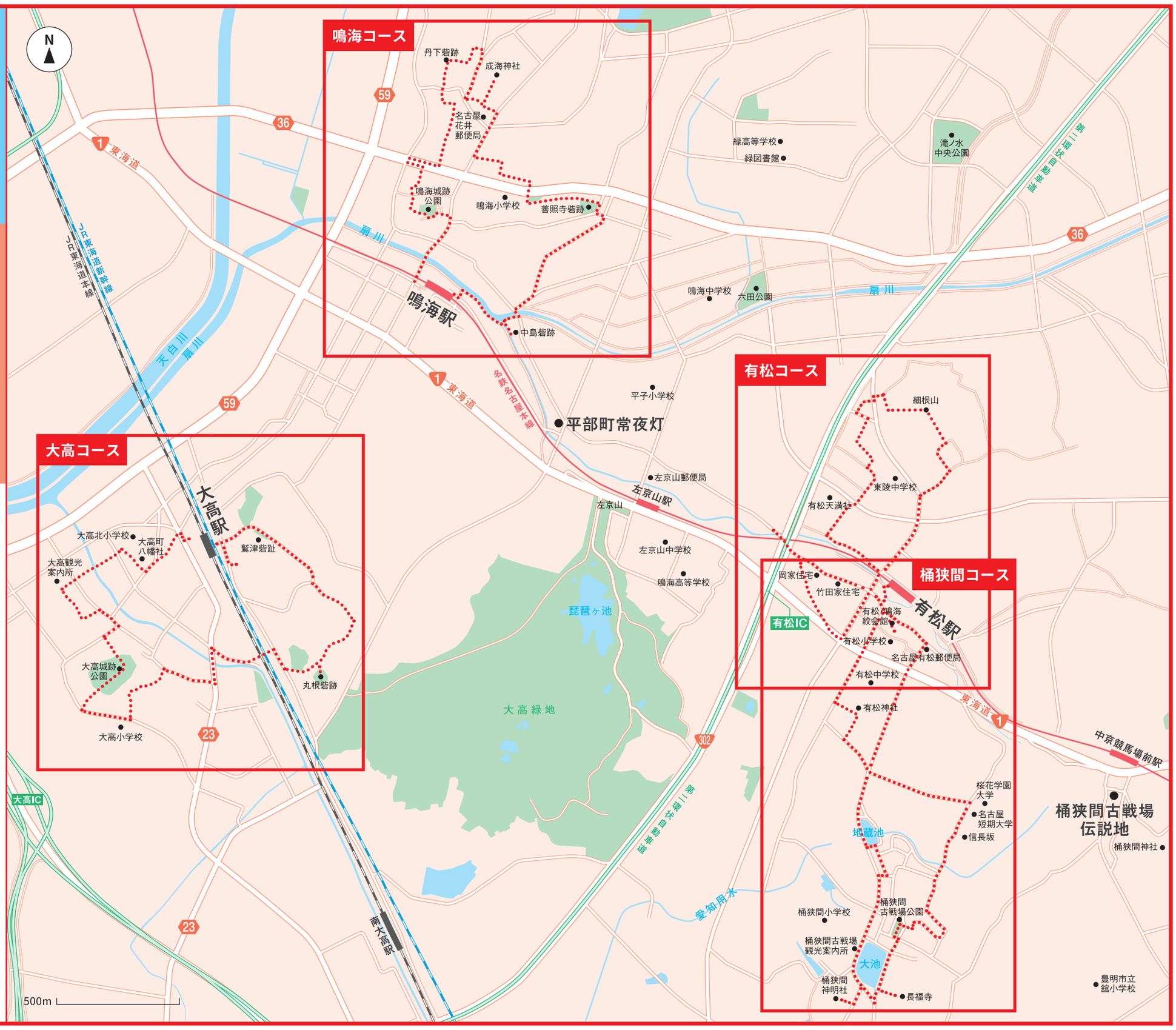
なごや-ロケーション-ナビ www.nagoya-info.jp/location/
〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目10-19 名古屋商工会議所ビル11F ［TEL］052-202-1145
（公財）名古屋観光コンベンションビューロー内 ［E-mail］nagoyaln@ncvb.or.jp ［FAX］052-201-5785
名古屋コンシェルジュ www.nagoya-info.jp/

協力：緑区観光推進協議会
制作：COUPGUT 2026.10.6000

広域マップ



名古屋市緑区は、市の南東部に位置し、人口が約24万人と市内16区の中で最も多く、利便性が高いため、子育て世代にも人気の区です。
また、桶狭間の戦いに関連する史跡や、各時代を彩った城跡、有松伝統的建造物群保存地区の歴史的な町並み、有松・鳴海絞りや大高の酒造業といった伝統産業など、豊富な歴史・文化資源を有しています。また、大高緑地をはじめとする豊かな自然環境にも恵まれています。
このマップは、そんな緑区の中でも、戦国時代にゆかりのある地域や歴史的な名所に焦点を当てたブラリまち歩きマップとなっております。



鳴海コース



1 誓願寺



戦国時代（1573年）に創建された西山浄土宗の寺院です。松尾芭蕉が亡くなった翌月に如意寺に供養塔（芭蕉の供養塔としては最古のもの）が建立され、その後現在地に移されました。江戸時代（1854年から1859年）に芭蕉堂が建立され、芭蕉が手植した杉の木で彫刻された芭蕉像が安置されています。

2 鳴海城跡



室町時代（1394年）に安原備中守宗範がこの地にあった成海神社を乙子山に移し、鳴海城を築城しました。当初は織田信秀の家臣が城主でしたが、その後今川方に寝返りました。桶狭間の戦いの際は、今川方の岡部元信が城主となり、合戦後、今川義元の首と引き換えに織田方へ城を明け渡しました。1590年に廃城後、成海神社のお旅所として天神社が祀られました。

3 丹下砦跡



今川方の鳴海城を抑えるために築いた砦の一つで、1559年に織田信長が、光明寺から裏手の清水寺遺跡周辺に設けたと伝えられています。東西84m、南北78m。信長公記によると、水野帯刀、山口海老之丞、柘植玄蕃充などが勤めていました。

4 成海神社



686年（飛鳥時代）創建。主祭神は日本武尊（やまとたけるのみこと）を祀り、宮簀媛命（みやずひめのみこと）と建稲種命（たけいなだねのみこと）を配祀しています。熱田神宮の東宮として鎮座し、室町時代（1394年）に鳴海城の築城のため、乙子山に移転しました。

5 善照寺砦跡



桶狭間の戦いにおける織田方の陣地で、1559年に織田信長が築いた砦の一つです。規模は東西43m、南北29mと伝えられています。信長は合戦に先立って兵を集結させ、本隊が駐留しているように見せかけ、のぼりや旗を残して密かに進軍し、今川軍に奇襲をかけたと伝えられています。

6 中島砦跡



織田信長が鳴海城を包囲するために築いた砦の一つで、梶川平左衛門以下260名の武士を配置していました。長さ144m、幅90mと伝えられています。信長はこの砦を経由し、桶狭間に向かったとされています。

大高コース



1 長寿寺



創建不明。桶狭間の戦いの時に焼失しましたが、大高領主志水忠継の母・長寿院は、孫忠時に禅寺建立を遺命し、伽藍が建立されました。

2 鷲津砦跡



標高30m、東西40m、南北69mの広さの砦で、1559年に織田信長が大高城を監視し、孤立させるために丸根砦と共に築きました。1560年5月19日未明に、今川勢約2千人が織田勢約5百人を攻め立てて陥落させました。

3 丸根砦跡



標高35m、東西36m、南北28mの楕円状の砦で、織田信長が大高城を監視するため、鷲津砦と共に築きました。1560年5月19日未明に、松平元康が織田勢約5百人を攻め立てて陥落させました。

4 兵糧入れの道筋



1560年5月18日夜（桶狭間の戦い前夜）に、松平元康が大高城に兵糧入れを行った際の道筋です。戦国時代らしい、細く曲がりくねった道となっています。

5 大高城跡



築城年は不明。標高20m、東西106m、南北32mの台形状の平山城で、四方に二重掘がありました。現在も一部その形跡が残されています。1560年5月18日、織田信秀の死後、今川方の城となっていた大高城へ松平元康（当時19歳）が兵糧を運び込みました。同年5月19日に丸根砦を陥落させた後、大高城で休息。その後、今川義元の討死を確認して岡崎へ向かい、大高城はやがて廃城となりました。1938年に丸根砦・鷲津砦と共に国指定史跡となりました。

6 戦国時代の道筋



戦国時代の街づくりは、外部からの敵の侵入に備え、かぎの手・T字路の道筋となっており、その名残が現在でも見られます。

7 八幡社



大高城主の花井備中守が鶴岡八幡宮から勧請し（時期不明）、村人が参詣していた神社です。桶狭間の戦いの翌年（1561年）に松平元康（後の徳川家康）がこの神社を参詣した記録が残されています。

有松コース

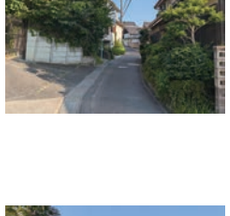


1 細根・かりと様



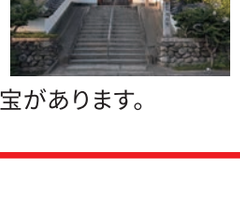
桶狭間の戦いにおいて、中島砦からおけはざま山にあった今川義元の本陣へ向かう際、低地であり、隠れて進軍した可能性がある地域です。また歯痛のため討たれた今川方の武将の墓、地中から現れた「かりと」を村人が掘り起こしたところ、急な歯の痛みに襲われたため祀った、とも伝わる石碑があります。

2 長坂道



江戸時代以前からあった古道で、鳴海から桶狭間を通り大府や刈谷へ向かうのに使われました。桶狭間の戦いの際には人馬が往来したと伝えられています。

3 祇園寺



戦国時代（1592年から1595年）鳴海村にて圓道寺の名で創建。江戸時代（1755年）有松に移った際、大雄山祇園寺と改称されました。愛知県内で最も古いとされる仏足石や仏足石歌碑、三十三観音像や十六羅漢像などの寺宝があります。

4 有松一里塚・旧東海道



街道の塚は、織田信長・豊臣秀吉により築かれ始め、江戸時代に徳川秀忠の命によって、一里塚が整備されました。道程の目印や馬・駕籠の料金の目安となるほか、旅人の休憩場所としても利用されていました。有松の一里塚は尾張名所図会にも見ることができます。

5 鎌研橋（かまとぎ）



桶狭間の戦いの時、織田信長が清洲城に戻る際に通ったとされる橋で、家来に橋の名前を尋ねた際、「かちどき橋」と縁起の良い聞き違いをしたのではないかとの言い伝えがあります。

6 竹田庄九郎碑



有松は1608年、東海道の整備に伴い竹田庄九郎を始めとする8人により開かれました。1610年、徳川家康の命で名古屋城が築城された際、庄九郎は九州方面から来ていた人々が身に着けていた絞り染めの衣類に注目し、絞りの技法を学びました。工夫して作った絞り染めの手ぬぐいを東海道の旅人の土産品として販売したところ評判となり、有松を代表する産業へと発展。絞り開祖としての功績を讃え、石碑が建立されました。

7 有松・鳴海絞会館

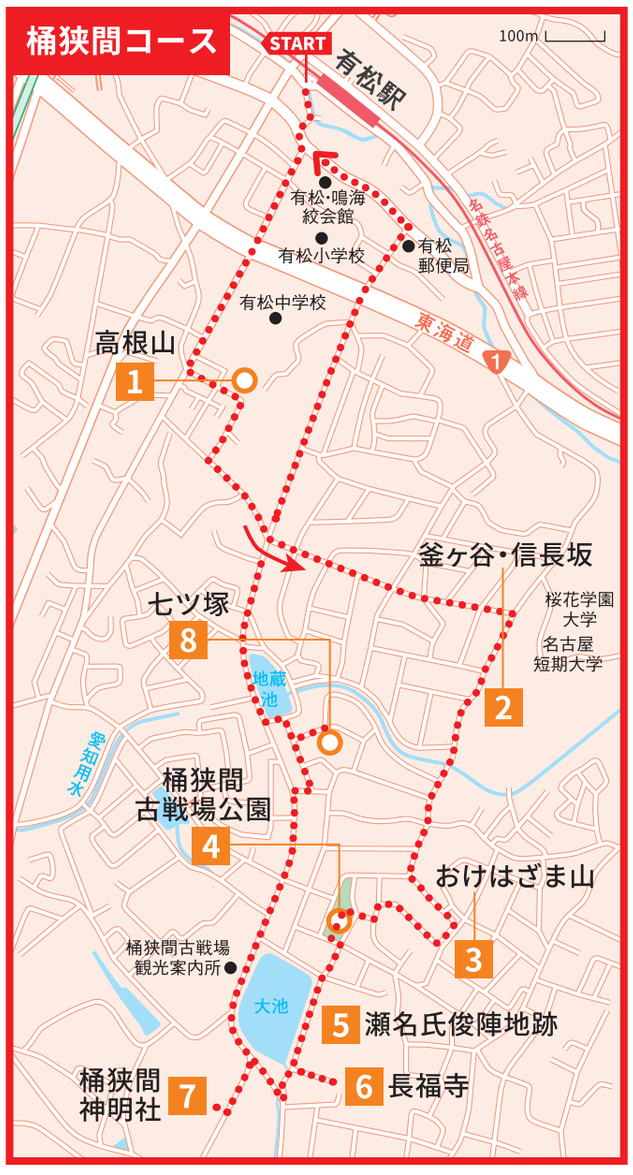


絞りの歴史や技法を紹介し、絞り体験（要予約）や実演、展示等を見ることができます。また2階には、名古屋城の本丸御殿にある「竹林豹虎図」を、有松絞りと名古屋友禅染の技法を生かして製作した襖絵が飾られています。

開館時間：9:30-17:00（年中無休）

※2階展示室（要入館料）

桶狭間コース



1 高根山



今川方の松井宗信が陣地を置き、本陣の守備と、鳴海城や善照寺砦の監視をしていました。織田方の先陣、佐々・千秋軍を撃退しました。

2 釜ヶ谷・信長坂



中島砦より進軍してきた織田信長は、釜ヶ谷に潜んで突撃の機会を窺ったと言われています。おけはざま山の今川義元本陣へ織田軍が一気に駆け上がった斜面は、信長坂と名付けられています。（桜花学園大学構内）

3 おけはざま山



おけはざま山の中腹から山頂にかけて今川義元の本陣が設営されたと言われています。信長はこの本陣を急襲し、桶狭間の戦いに勝利しました。

4 桶狭間古戦場公園（田楽坪）



今川義元の最期の地と伝わっており、義元の墓などがあります。園内は当時の地形を模して造られています。

5 瀬名氏俊陣地跡



桶狭間の戦い二日前に、今川軍の先陣として、瀬名氏俊軍200人が着陣しました。ここを拠点に、おけはざま山に今川義元の本陣を設営しました。

6 長福寺



戦い後、境内で今川義元などの首検証を行ったとされています。立ち会った林阿弥は、後に主君を弔うため阿弥陀如来像を持参し、現在もご本尊として祀られています。

7 桶狭間神明社



14世紀中頃、桶狭間に人が住み着いて間もなくの創建。今川方の瀬名氏俊が戦勝祈願し、御酒を供えたと言われる桶が宝物として保存されています。

8 七ツ塚



戦いに勝利した織田信長は、村人達に戦死者を弔うように命じると、この付近に兵を集め勝どきを上げ、清州へ帰りました。その後、村人は東西に七つの穴を掘り、戦没者を埋葬、塚として弔いました。